

三浦 俊也 監督の紹介

1963年7月生まれで岩手県釜石市出身の58歳。地元釜石南高校から駒澤大学に進み、高校、大学ともにサッカー部に所属していました。大学卒業後は高校の体育の先生の資格を取っていましたが、当時はまだサッカーコーチの職がなかったため、就職は地元に戻って養護学校で不登校の子供たちをケアする仕事をしながら、地元クラブチームでサッカーも楽しんでいました。

その後はプロのサッカーコーチを目指し、まずはドイツに1年半語学留学し、ドイツ語を学びながら現地のアマチュアサッカーチームにも所属しました。その後、ケルン体育大学に入学し、サッカー理論や指導法を5年間学び、ドイツのA級ライセンスを取得しました。

日本にプロリーグが誕生後、監督にもライセンスが必要とのことでプロ監督になるためにはライセンスの取得が義務付けられ、その講師としてドイツ協会のプロライセンス主任講師が招かれた際、通訳を兼任しながら受講し、ライセンスを取得しました。

1997年にブランメル仙台(現ベガルタ仙台)からコーチとしての話があり、そこからプロコーチ人生が始まりました。その後はJFL(現J2)水戸ホーリーホック、J2大宮アルディージャの監督を歴任。サッカー解説者を経て、再度J2大宮アルディージャの監督に就任し、J1昇格を果たしました。その次にはJ2のコンサドーレ札幌の監督として、再びJ1昇格を果たし、その後もJ1ヴィッセル神戸、J1ヴァンフォーレ甲府の監督を歴任しました。

2012年には早稲田大学大学院で平田竹夫男教授の元、1年間スポーツマネジメント学科で修士を取得しました。

その後、田嶋さん(現JFA会長)の紹介でベトナム国家代表チーム監督を務め、同時にオリンピックチーム監督、その後ホーチミン・シティFC(ベトナム1部)の監督を歴任しました。今ではベトナムは東南アジアでタイに次ぐサッカー強国に育っており、近いうちに良い選手が日本で活躍する日が来ることを楽しみにしています。

2019年に帰国し、再びテレビ解説者を経て、昨年7月FC岐阜への話があり9月からチーム統括本部長兼テクニカルダイレクターに就任し、J2への昇格を目指しましたが、結果的には2年連続6位に終わってしまった状況をつぶさに見て、このチームの状況をしっかりと見ることができたと思っています。その後小松社長、山道チーム統括本部長と一体で新体制を十分に協議して、今シーズンの新スタッフ、チーム編成をじっくり行えたので、皆様のご期待に応える『強くて魅力あるチームで、地域に愛されるクラブ』を目指して頑張っていきます。

J3は若いこれからの選手も多く、大変興味深いリーグと言えます。同時に経験も不足している部分も多いかもしれません。今シーズンはJ2から4チームが降格してチーム数も18に増えるので、昨年よりもっとレベルが上がり厳しいリーグになっています。しかし、その中でも今シーズンは昇格するのに十分な補強が出来たと思っています。

今シーズンは『全員が新化』をチームスローガンにLet's fight together for J2!で昇格を目指し、その先も目指しますので皆様のオール岐阜体制の応援をよろしくお願いいたします。長い目で『みんなのFC岐阜』FC GIFU for Everyone!のクラブを目指しましょう。今回のFC岐阜との出会いを大きな節目にして、大きな夢を実現すべく共に着実に前進しましょう！



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

三浦 俊也 監督 (58歳)